

## 焼森山&鶏足山山行報告

【山行日】2021年3月24(水) 晴れ  
【集 合】道の駅「しもつけ」 AM 6:30  
【費 用】マイカー2台 : 1,100円  
【メンバー】CL:鈴木ユ、SL大西 安西、石澤、  
嶋田、島田、関、田村、福田夕、渡辺  
【コースタイム】道の駅「しもつけ」6:30=登山口  
P7:40/7:55~ミツマタ群生地 8:20/8:50~  
焼森山 9:30/9:40~鶏足山 10:10/10:20~登山口  
P10:55/11:05=いい里「さかがわ館」11:20/12:15  
=益子焼 12:50/13:00=道の駅「しもつけ」13:50



春の訪れを告げる森の妖精『ミツマタ』を見たいとの要望があり、焼森山から鶏足山を計画した。ミツマタの花が見頃の時期は大混雑するため、平日の水曜日に計画する。道の駅「しもつけ」を6時



30分に出発し、いい里「さかがわ館」でトイレを済ませミツマタ群生地の駐車場に着く。平日でも駐車場はすでに満車で、係員の誘導で手前の草地に車を止める。準備を整え、ストレッチを行ったら出発する。

林道を歩いて行き、ミツマタ群生地入口から山道に入る。群生地は反時計回りに一方通行になっており、見物者がすれ違わないよう配慮されている。ミツマタの花は丁度見頃で、多くのカメラマンや見物者で賑わっている。黄色い妖精のトン

ネルをくぐると、谷全体がミツマタの花で埋め尽くされ、幻想的な光景に皆さんから歓声上がる。ミツマタの花を見下ろしながら周遊し、谷に降りると出口から林道に戻る。林道に出て左に進むとミ

ツマタ広場があり、係員に協力金1人200円を徴収される。広場にはベンチとトイレがあり、トイレを済ませてから焼森山へ向かう。そのまま林道を南に進み、Y字路を右に進むと右側に焼森山への小さな標識がある。ここから急な登山道を登り、尾根に出たら左に進むと焼森山山頂に着く。山頂からの展望は良く、焼森山山頂と書かれた標識板が木の根もとに置かれていた。その標識板を持って記念写真を撮り、休憩を取ってリンゴや菓子をいただく。ここから東の尾根を下っ



て行き、座禅岩なる岩を左に巻き平坦な尾根から北東に登り返すと、二等三角点が置かれた鶏足山南峰に着く。ここから一旦左に下り、北方に向かって登り返すと鶏足山山頂に着く。

山名の由来となった鶏の足跡のように見える岩が点在し、南を除く三方の展望が開ける。

北西方向には日光連山が望め、小休止して展望を楽しみ記念写真を撮る。ここからは茨城県との



県境尾根を北に向かって進む。少し下った所に鶏石への標識があり、右に急坂を下って行くと鶏の形をしてと言われる大きな岩がある。どのように見れば鶏に見えるのか疑問だったが、とりあえず岩の前で記念写真を撮り稜線の道に戻る。雑木林の気持が良い稜線が続き、アップダウンを繰り返して進む。ピークをいくつか越えた所で二股に分かれ、計画では右に進むべき所を左の登山道を進んだ。こちらの方が多く歩かれるようで、登山道が広くはつきりしているため間違ってしまった。お蔭で早く

往路の林道に出られ、林道を右に進むと直ぐに駐車場に戻れた。駐車場に戻ると驚いた、駐車場と我々が止めた駐車場所は満車で、駐車場の空き待ちの車が狭い道に長蛇の列をなしていた。

急いで靴を履き替え、少しでも早く駐車場所を空けてあげる。ここから昼食を食べる予定のいい里「さかがわ館」に向かったが、ここもシャトルバスの発着所なので駐車場が一杯だった。何とか車を止めてレストランに向かい、それぞれ好きな物をオーダーし美味しくいただいた。お腹が満たされたら直売所でお買い物して帰路につく。

途中、益子町で「益子焼を買いたい」との要望があり、共販センターに寄ったが水曜日で閉まっていた。徳ちゃんの案内で町の中の陶器店に行き、目的の陶器をゲットする。我々には少々お値段が高く、とても買えるものが無かった。



途中、益子町で「益子焼を買いたい」との要望があり、共販センターに寄ったが水曜日で閉まっていた。徳ちゃんの案内で町の中の陶器店に行き、目的の陶器をゲットする。我々には少々お値段が高く、とても買えるものが無かった。

素晴らしいミツマタの花を観賞し、適度の山歩きを楽しんで美味しいランチをいただき、お買い物もできて充実した一日となった。

